

田村憲久厚労大臣に

「帝王切開術」保険点数減の撤回等に関する要望書を 手渡しました！！

現在、国会会期中であり、厚生労働委員会開催中であったため、田村憲久厚労大臣との会談の日程調整が極めて難しい中、武見敬三事務所を通して、会談日程が決まった。

その結果、4月2日（水）17時25分より15分間であったが、日本産婦人科医会会長木下と日本産科婦人科学会岩下光利副理事長、および日本周産期・新生児医学会楠田聡副理事長が、武見敬三参議院議員の同席のもと、田村憲久厚労大臣室を訪ね、直接「帝王切開術保険点数減の撤回等に関する要望書」と、「全国のすべての分娩施設を中心に、産婦人科医、助産師、看護師等から集めた抗議の意志表示の署名43,802件」と、日本産婦人科医会が調査した「帝王切開術の分娩に占める頻度、産科医師数、分娩施設数の年次推移の表」を手渡し、抗議を行いその理由を説明した。

田村厚労大臣は、すでに、保険局医療課長から、今回の帝王切開術の点数減の理由を聴取していたが、「胎児を救うために、帝王切開術は、できるだけ短時間に手術をすませる必要のあることが多い。具体的には、執刀から10分内で、胎児を母体から取り出して、胎児蘇生を行うため、手術時間は1時間どころか、30分で、終わらせるほど、手術を急ぐことがある。そのような、産科のシンボルである手術術式であるだけに、手術時間の調査で、2時間から1時間になったからといって、やさしくなったわけではなく、かえって、難しくなっている。母児の安全のために、全エネルギーを集中させて、手術を行っているのだから、帝王切開手術料を、2倍にも3倍にも増額しても当然であるのに、逆に、半分にするなど、産科の実情を全く無視した点数の決め方には、承服できない。」との抗議を行った。我々の主張に、田村厚労大臣は同意し、さらに、「外保連試案の作成に際して、手術の意義や、特殊性につき各診療科の意見を取り入れた試案作成の仕組みとするようにすべきである」との外保連総会の決議にも、同意を示した。

そして、田村厚労大臣から「今回の診療報酬改定が決定された段階であるので、その内容は変更できないが、次回改定に際し、帝王切開術の点数に関しては、前向きに検討させていただく。」との回答を得た。

最後に、今回の署名の依頼に関して、迅速にご対応いただき、43,802件の署名をいただきました。会員各位のご協力に厚く御礼申し上げます。

また、具体的な帝王切開術の新たな点数に関しては、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会の外保連委員とも検討し、外保連の手術術式に関する検討事項だけでなく、考慮すべき項目を追加し適切な手術料を算出した上で、外保連ワーキンググループで調整するなどして、次の診療報酬改定で対応していただけるよう、積極的に厚労大臣および保険局医療課長に要望してまいります。

会員各位のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

平成 26 年 4 月 3 日

公益社団法人日本産婦人科医会
会長 木下 勝之



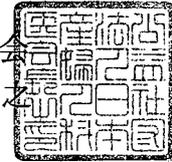
平成 26 年 4 月 2 日（水）厚生労働大臣室にて

右から 武見敬三参議院議員、田村憲久厚生労働大臣、日本産婦人科医会木下勝之会長、日本産科婦人科学会岩下光利副理事長、日本周産期・新生児医学会楠田聡副理事長

平成 26 年 4 月 2 日

厚生労働大臣
田村 憲久 殿

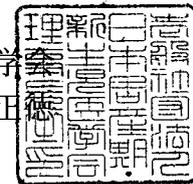
公益社団法人日本産婦人科医会
会長 木下 勝之



公益社団法人日本産科婦人科学会
理事長 小西 郁



一般社団法人日本周産期・新生児医学会
理事長 田村 正徳



「帝王切開術」保険点数減の撤回等に関する要望書

常日頃より母子保健行政推進にご尽力ご指導賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今般平成 26 年度診療報酬改定により、帝王切開術等の保険点数が大幅に削減されるという答申がなされました。この削減は、わが国の少子化による分娩数の減少とハイリスク妊婦の増加等で多大な影響を受けている産婦人科医と、これから産婦人科医を目指す若い医師の夢を砕くものです。

分娩を担当する産婦人科医と施設の減少が続いている今日、我々産婦人科医は、母子の安心・安全な分娩を目指して複数の医師、助産師、看護師等の確保と訓練に多くのエネルギーを注いでおります。その中で妊婦または胎児のために、分娩前に帝王切開術を選択する場合や、分娩経過の中で、緊急に帝王切開術をすることが日常的にある産婦人科医にとって、帝王切開術は、母児の安全を担保する必要不可欠な基本手術術式なのです。

この基本中の基本となる手術術式に対して、「外保連試案 8・2 版」を基に、手術時間が前回の 2 時間から 1 時間に減ったことだけで、その意味も考慮せず保険点数を機械的に減にすることには全く承服できません。

従って、今回の産婦人科医の夢と希望を奪うような帝王切開術の減点を、直ちに撤回し、さらに前回の点数より増とすることを強く要望いたします。

以上の主旨に賛同する方々の署名も別添いたします。

帝王切開術保険点数減の撤回等を要望する署名人数一覧

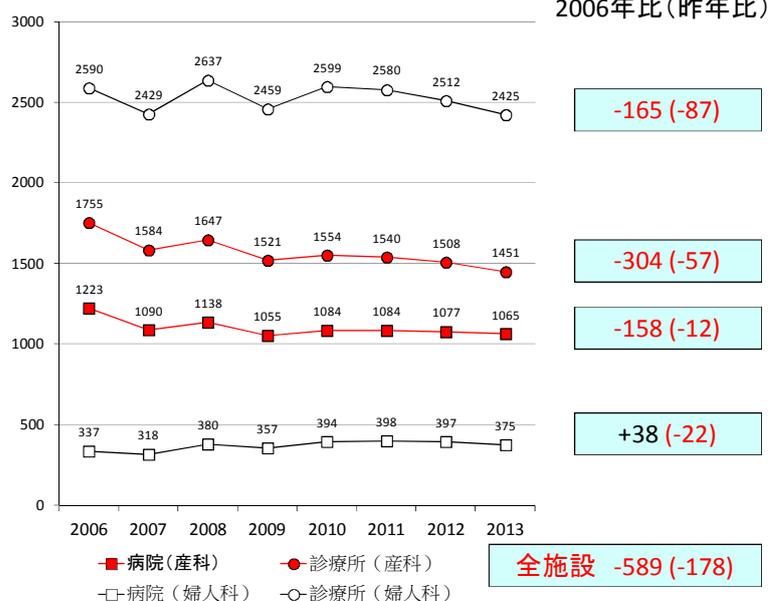
番号	都道府県	人数
1	北海道	1,466
2	青森	443
3	岩手	501
4	宮城	616
5	秋田	390
6	山形	335
7	福島	929
8	茨城	1,017
9	栃木	1,016
10	群馬	669
11	埼玉	1,389
12	千葉	1,332
13	東京	3,119
14	神奈川	1,412
15	山梨	292
16	長野	789
17	静岡	940
18	新潟	655
19	富山	449
20	石川	427
21	福井	319
22	岐阜	1,000
23	愛知	3,836
24	三重	542

番号	都道府県	人数
25	滋賀	314
26	京都	440
27	大阪	3,647
28	兵庫	1,433
29	奈良	217
30	和歌山	212
31	鳥取	232
32	島根	495
33	岡山	684
34	広島	1,395
35	山口	1,053
36	徳島	273
37	香川	293
38	愛媛	641
39	高知	284
40	福岡	2,583
41	佐賀	292
42	長崎	983
43	熊本	1,399
44	大分	698
45	宮崎	511
46	鹿児島	1,005
47	沖縄	835
Total		43,802

産婦人科の動向と 勤務医就労環境

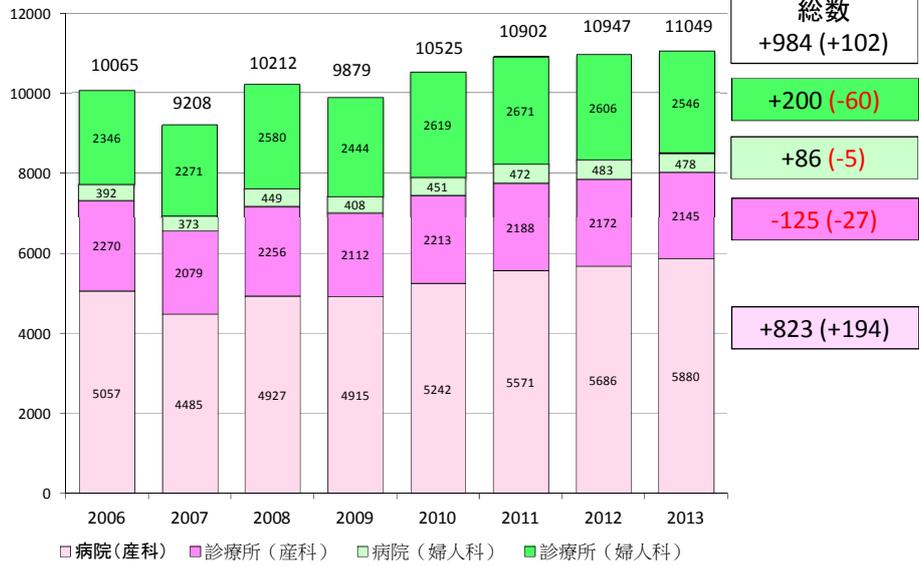
日本産婦人科医会常務理事
日本医科大学
中井章人

産婦人科施設数の推移 (2013年1月現在5,316施設)



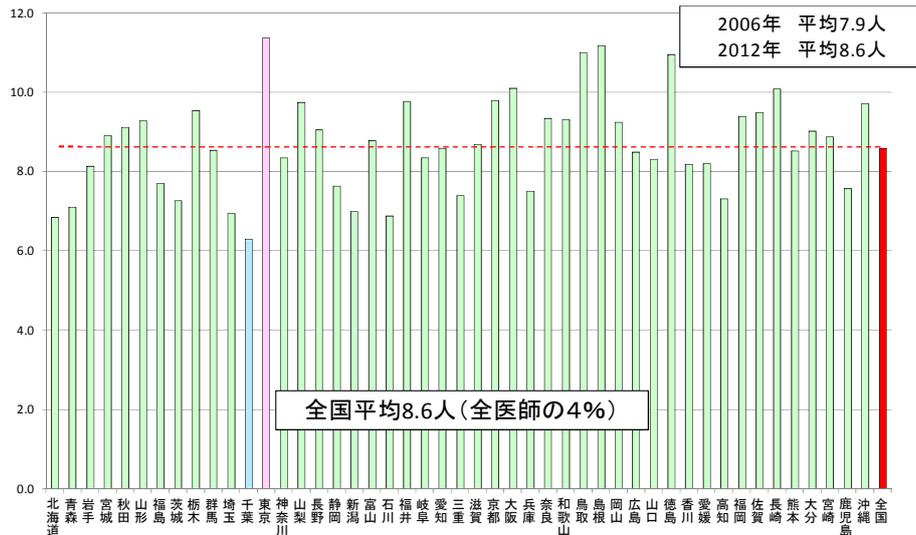
産婦人科常勤医師数の推移

2006年比(昨年比)



日本産婦人科医会施設情報調査2006-2013

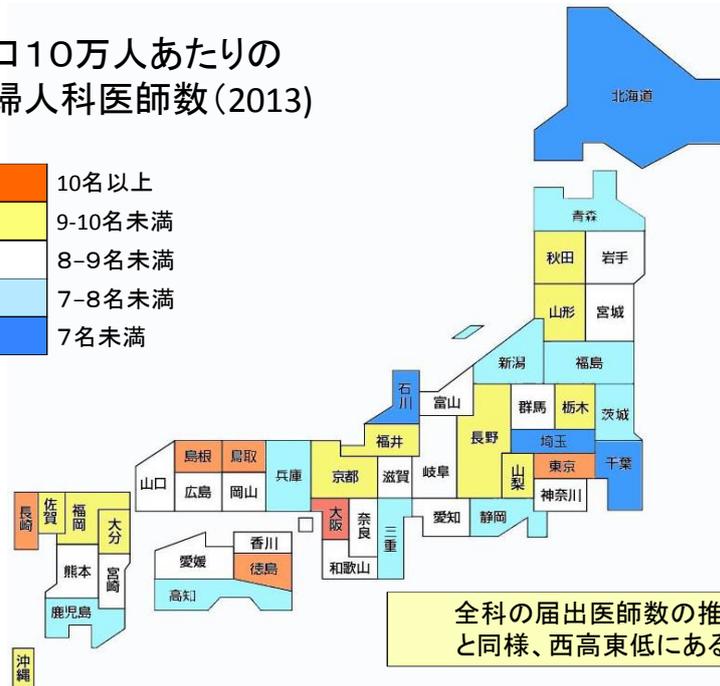
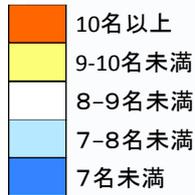
2013年人口10万人あたりの産婦人科医師数



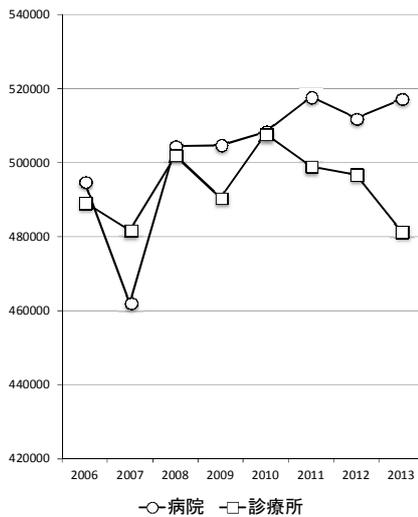
人口10万人あたりの産婦人科医師数は6.3人から11.4人まで2倍近い格差がある

日本産婦人科医会施設情報調査2013

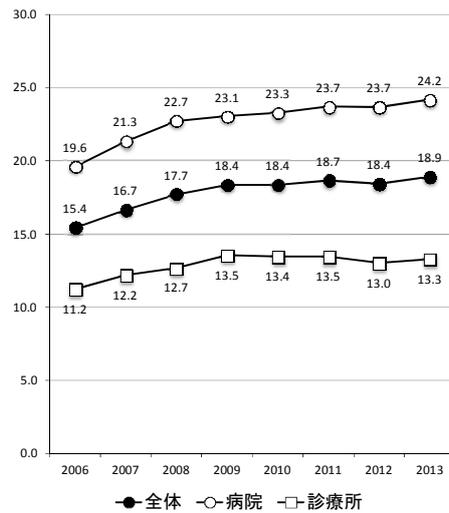
人口10万人あたりの 産婦人科医師数(2013)

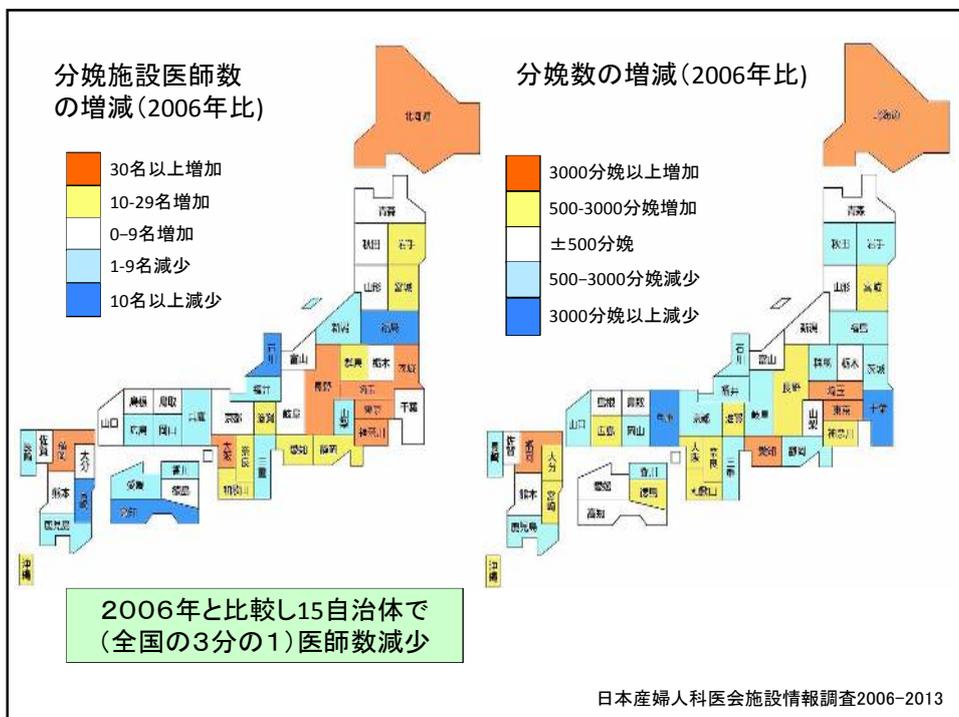
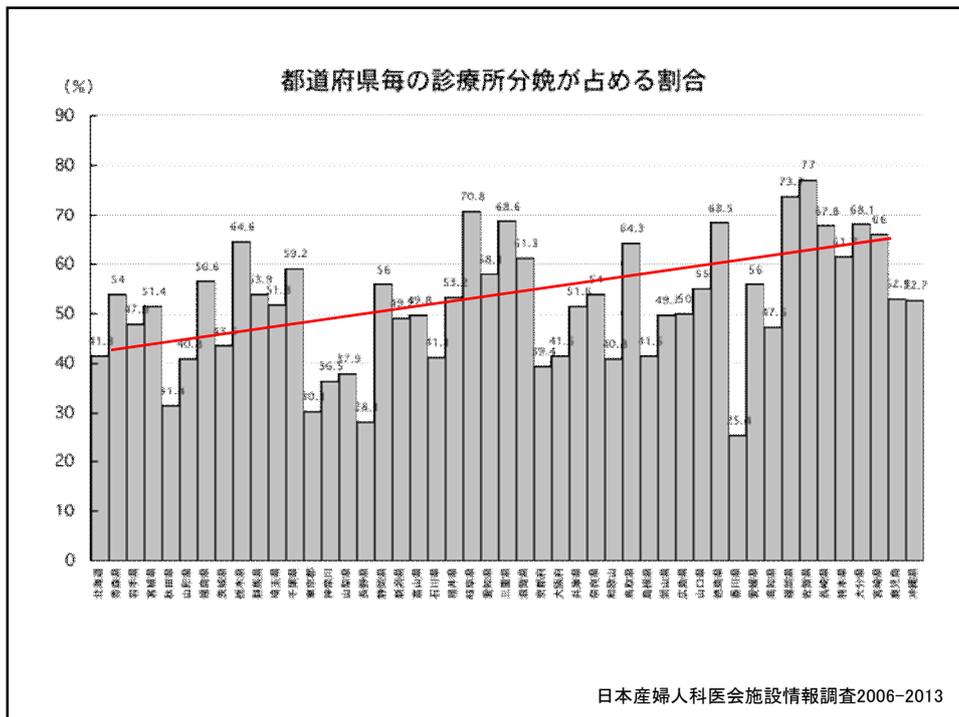


分娩数の推移

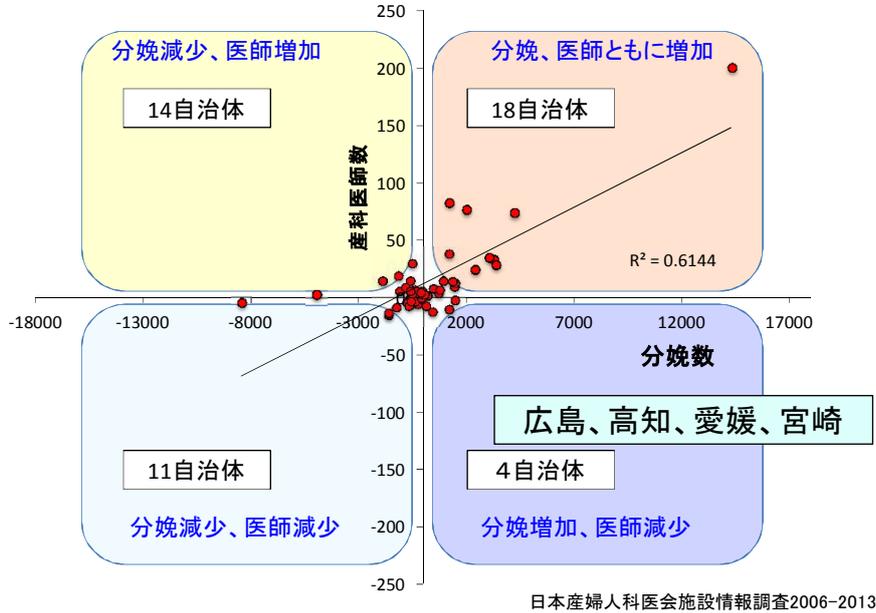


病院、診療所の帝王切開率(%)

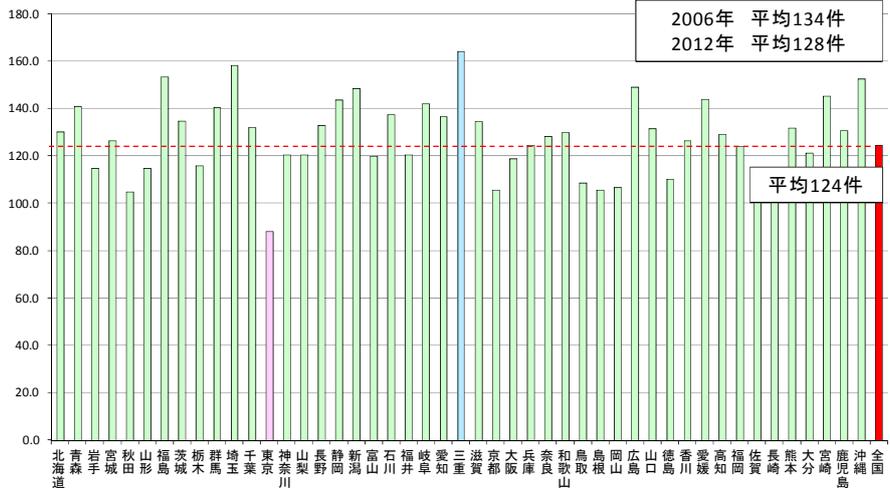




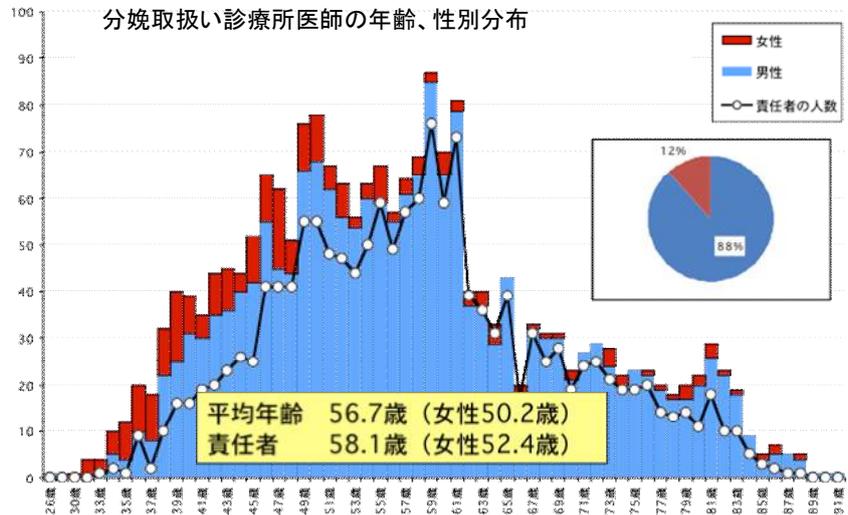
分娩数の増減と産科医師数の増減



医師一人当たりの分娩数(2013年)

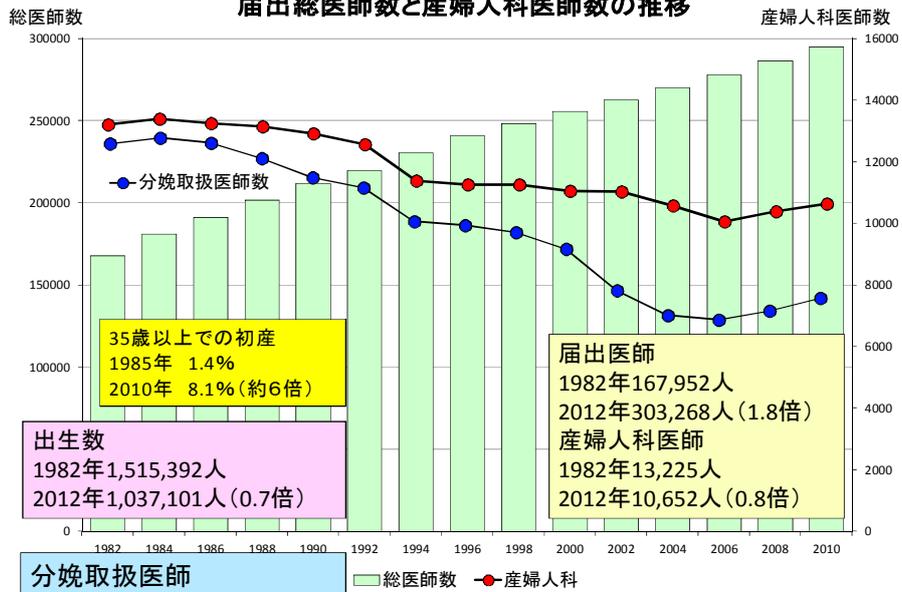


診療所を支える医師の現状



日本産科婦人科学会調査2009年
日本産婦人科医会施設情報調査2009

届出総医師数と産婦人科医師数の推移



平成22年(2010年)医師・歯科医師・薬剤師調査の概況2010年12月31日現在
日本産婦人科医会施設情報調査2006-2013